

第4章 今後5年間取り組む施策

1 本町教育の取組における視点

基本目標「21世紀に生きる心豊かな人づくり ～自ら学び ともに磨き合い 地域（シマ）を興す人づくり～」の実現に向けて、次の視点から施策の推進を図ります。

(1) 時代を超えて価値の変わらない地域の教育的財産（人・もの・こと）の尊重

教育には不易と流行があると同時に、奄美大島、瀬戸内町には伝統的に受け継がれてきた価値観があります。人と人のつながり、文化財や伝統行事、島唄や「ゆすいぐとう」などの伝承は時代を超えて価値の変わらない大切な教育的財産です。規範意識、自律心と責任感、他人を思いやる心、公共の精神、幅広い教養、健やかな心と体などはいつの時代の教育でも大切に育んでいかなければならない重要なものとして捉え、施策の推進に当たります。

(2) 社会の変化に対応し、持続可能な目標を実現する能力の育成

現代は社会情勢が日々変化し、「答えのない時代」とも言われます。このような時代にあっては変化に対応する人材を育成するために、柔軟性や即応性のある教育を推進することが求められます。また、それを持続可能なものにしなければなりません。

一人一人の夢や目標の実現に当たっては、社会の変化に対応するための想像力や思考力、判断力、他者と共生するためのコミュニケーション能力、自ら問題を解決していこうとする主体性、グローバル化や高度情報化に対応する情報活用能力等を身に付けた人材の育成を目指します。

(3) 学校・家庭・地域の連携・協働

学校は、一人一人を大切にし、その個性に応じて、基礎的・基本的な知識・技能、学ぶ意欲を十分に身に付けさせるとともに、豊かな心や健やかな体を育むための教育を行い、児童生徒の能力を最大限に伸ばす役割があります。

家庭は、教育の原点であり、家庭教育はすべての教育の出発点です。基本的な生活習慣を身に付けさせ、自律心を育て、心身の調和の取れた発達を促すことが求められます。

地域は、社会の基本単位である家庭を支えるとともに異年齢集団での交流を通じた様々な体験を積み重ねることで人間性を育成したり、自分の役割を果たしたりするための役割を担っています。

(4) 郷土の教育的な伝統や文化、風土の活用と未来への継承

地域の宝であり、大切な未来の担い手である子どもを育てるために自然や文化、先人の遺徳など教育的資源が大きな力を発揮します。

また、子どもが郷土を知ることによって自分の生き方を考えたり、伝統や文化を継承することの大切さに気づき、その担い手として主体的に行動する力を身に付けさせたりする教育の推進を目指します。